

発行：福岡地区労働組合総連合
〒812-0016
福岡市博多区博多駅南1-9-8
ケイ・アイビル2F
TEL 092-433-3338
FAX 092-433-3535
Mail : fukuciku@gmail.com



(HPはこちら)

2023
4月号

福岡地区労連

働くものの団結で生活と権利を守ろう！

第94回メーデー

5月1日開催



第94回メーデー 2023年 5.1日 警固公園 (福岡市中央区)
第94回福岡中央統一メーデー実行委員会 福岡市博多区博多駅南1-9-8 ケイ・アイビル2F
TEL : 092-433-1833 FAX : 092-433-1822
Email : info@fuk-cen.or.jp

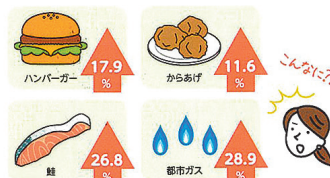
「働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう」をスローガンとして、コロナが明けた今年は5月1日に警固公園で第94回メーデーが開催されます。コロナ禍の3年間は、オンラインメーデーや規模を縮小して開催されてきました。スローガンには、ロシアのウクライナ侵攻による異常な物価の高騰で、国民の生活が苦しくなっている現状を打開することをめざして、労働組合が団結して闘うというメッセージが込められています。

今年のメーデーは、若い人たちを含めた参加者が楽しんでもらえるように、デコレーション、プラカードに加えて、メッセージボード、横断幕、仮装、パフォーマンスなどのアピールも対象にしています。

警固公園での集会後は、警固公園へ渡り通り〜きらめき通り

ひどすぎる物価高騰！

この1年で2万743品目が平均14%値上げ



起源は八時間労働制

メーデーは、1886年5月1日、アメリカの労働組合が八時間労働制を要求してストライキ・デモ行進を行ったことが起源です。当時は12〜14時間労働が当たり前でした。アメリカの労働者は「第1の8時間は仕事のため、第2の8時間は休息のために、そして残りの8時間は、おれたちの好きなことのために」と歌いながらたたかい、8時間労働制をかちとりました。運動の中心地だったシカゴでは5月4日、ハイマーケット広場に

集まったストライキ参加者を武装警官が襲い、多数の死傷者が出たのをきっかけに、資本家側は8時間労働の約束をほごにします。労働者側はゼネストでたたかい、世界に共同行動を呼びかけ、1890年に各国で第1回メーデーが実施されました。

(編集委員 内田)

日本第1回メーデーは上野公園に5000人が参加

日本でメーデーがはじまった第1回メーデーは1920年(大正9年)5月2日です。

警固公園までデモ行進します。

東京・上野公園に5,000人が集まりました。(世界のメーデー起源は別記参照) 第1回メーデーのスローガンは「治安警察法17条撤廃」「最低賃金制度の確立」などの要求を決議しています。集会後のデモ行進は、警察官に検束され自由な行動はできないため、なんととしても成功させるという厳しい気合のこもった戦闘的行動で開催を成功させました。

(編集委員 内田)

人事院「緊急勧告」要求に応えず

23春闘で公務員の労働組合である公務労組連絡会は、月額25,000円以上、時間給250円以上の賃上げ要求を掲げると同時に、昨年からのエネルギー高騰による急激な物価高騰に対して、770万人に影響を与える人事院の給与勧告について、これまでの8月期まで待つのではなく、1974年(昭和49年)の第一次オイルショック時の5月に出した臨時勧告を参考に、国民生活を守るために緊急的な給与勧告の実施を求めました。

た。しかし、人事院は3月24日の最終回答で従来の回答にとどまり、物価高騰で生活悪化に苦しんでいる労働者や国民の切実な要求に真摯に答えることをしませんでした。公務労組連絡会は緊急勧告を求め、「物価高騰に対応した緊急勧告を行うことを求める職場決議・団体署名」計925団体を人事院にそれぞれ追加提出しました。国公九州ブロックも福岡県国公も福岡地区国公も団体署名を提出しました。

(編集委員 惠藤)

3月19日福岡県総がかり行動が行われ、約600人が参加しました。立憲野党、フライデーフォー、フューチャー福岡、労働組合や多くの民主団体が参加しました。集会では、大軍拡の問題、沖縄へのミサイル配備問題、脱原発、日本学術会



総がかり行動参加者がツインタワービル前に集結

＜3・19憲法を活かしたいのちと暮らしを守る福岡県総がかり行動＞ 県民・市民のくらしを よりよくするために

議への政治介入問題など訴えがありました。

集会後、団体ごとに分かれアピール宣伝を行いました。宣伝の中で、「5兆円の軍事費があれば何ができるのか?」「物価高騰や20年以上賃上げされない中、大軍拡による大増税なんて許されない。」など多くの発言がありました。さらに、「県民、市民の暮らしをよりよくするために4月に行われる一斉地方選挙はみなさん投票に行きましょう。」と呼びかけました。

(医療団労組 矢野)

＜食糧危機＞ 地球温暖化による 食糧不足と水不足の危機

3月20日に国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が第6次統合報告書を交渉しました。報告書は現

状の評価と必要な対策をまとめたもので、おおむね5〜7年ごとに公表されていきました。今回はコロナ禍もあって9年ぶりの公表です。報告は温暖化がすすむほど「損失と被害が拡大する」食糧不足や水不足が増えるなかで、感染症の世界的流行や紛争などが重なることより事態はきびしくなるとしています。国連のグテレス事務総長は「気候の時限爆弾が針をすすめている」と危機感を示しています。



新聞は、日本の環境省幹部は「正直、まだ何も手が付いていない」と頭を抱える(朝日新聞3月21日付け)と報道しています。また「文藝春秋」4月号の緊急特集「日本

の食が危ない!」で、鈴木宣弘・東京大学大学院教授の論考は、日本の安全保障の脆弱さに対する食・農業の観点から重大な告発をしています。鈴木氏は、食糧自給率はカロリーベースで38%だが、種子や肥料の輸入を考慮すると実質は10%前後と推計し、「世界で最初に飢えるのは日本」という表題の書籍を発売されています。

(編集委員 惠藤)

＜ニチアス抗議行動＞ 反省と謝罪無くして アスベスト被害の根絶なし

福岡建設労働組合福岡東支部 書記長 山中 健



ニチアス九州支社前での抗議行動

建設アスベスト被害者の救済と被害根絶を求める運動は、2021年5月の第1陣の最高裁判決により、国が原告に謝罪し、2陣、3陣の原告とも和解しました。しかし、ニチアス、クボタといったアスベスト建材企業は、全く反省をせず、それどころか結論のわかっていない裁判をいまだに継続させています。私たちは、3月16日と20日に、赤坂にあるニチアスへ要請行動を行いました。

16日の九州支社への要請行動では、1陣原告への真摯な謝罪と2陣、3陣原告との速やかな和解を求めて原告と100名を超す支援者が集まり、要請行動を行いました。しかし、この日の要請では、ニチアス側は、要請書の受け取りを拒否し、「本社対応です」の姿勢を変えませんでした。やむを得ず、要請書を受け付けに置き、20日に回答を聞きに来ると伝えました。20日も、100名を超える支援者が赤坂に集まりましたが、ニチアス側は回答を拒否し、面談にすら応じませんでした。「昨年、本社に行けと言われたので、東京の本社まで行った。しかし、そこでも入口に鍵をかけ、誰一人出てこなかった。そして今日の対応

だ。まだニチアスは私たちの訴えを無視するののか」と怒りに震える原告と支援者は、抗議行動を行いました。

アスベスト問題は、まだ解決していません。生命を奪う危険なアスベストを建材として製造、販売し利益を得てきた企業こそ、最も責任が重く、心からの反省と謝罪無くして、被害者の完全な救済と、アスベスト被害の根絶はできません。

今後、自治体での意見書採択や、企業に責任を果たさせる為の署名への取り組みを進めていきます。

＜労働組合と地球環境問題を考える⑬＞ 守る会は九州電力にも

「まちこわし大賞」授与

3月号で福岡・住環境を守る会が1月14日高島市長に「まちこわし大賞」授与したことをお知らせしました。同じまちこわし大賞で2011年に九州電力の玄海原発1号機廃炉について「玄海原発は本当に安全ですか?」という内容で12月1日に授与していただいたので、2011年当時関わられた当時事務局長の石井吉弘氏に話を伺いました。2011年

は3月11日に東北大地震と福島原発が事故を起こした年です。守る会は九州電力株式会社だけでなく福岡県知事、福岡市長、糸島市長、佐賀県知事、玄海町長などの首長にも「まちこわし大賞」を授与しています。賞状には「私たちは反省しています。安全神話にすっかり騙されて」という書き出しではじまり「原発を推進する首長や議員に投票してき

たこと、そして各首長に「九電に再開の事前了解の権利さえ求めないのは何故ですか、何を恐れ誰を守るのですか」と問いかけています。石井副会長は「(当時)九電は受け取りを拒否しました。マスコミは飛びついてきました。海外のマスコミも取り上げてくれました。驚きました」と率直な感想を述べられました。

(編集委員 惠藤)

今後のスケジュール

- 市民連合ふくおか学習会
4月30日(日)
福岡県弁護士会館2階ホール
- 消費税廃止各界連絡会議学習会
5月21日(日) 14:00〜
天神ビル
- 九州労災職業病セミナープレ学習会
6月10日(土) 10:30〜
リファレンス博多東テーム「ジェンダーと健康」